

平成三十年度

卒業証書・学位記授与式 式辞

卒業生の皆さん、卒業おめでとう。

振り返ると、幼稚園、保育所、児童福祉施設などの五回にわたる実習 力を合わせて取り組んだ「山緑祭」、こども動物自然公園での「動物飼育体験」、ホスピタリティを学んだ「ディズニールランド体験」、石坂の森での「里山保全体験」、そして生き生きとした躍動感あふれるパフォーマンスを見せた「クリスマス会」でのオリジナル創作劇「カーリーナと魔女の歌」

春の若葉・夏の新緑・秋のどんぐり・冬の雪景、四季折々の美しくやさしさあふれるキャンパスで学んだ二年間でした。

本日は、後援会長 松井博明 様 同窓会長 高橋千鶴 様
そして学園から岡理事長 山村正巳本部長、山口・藤野両理事の各皆様にご臨席をいただいております。

だいぶ前ですが、新聞の投書記事を紹介します。

山形県最上川河口は白鳥の飛来数が多いことで有名です

が、毎朝十数羽ずつV字になって近くの田んぼへ飛んで行き、夕方またV字になって河口へ帰ります。ところが時折一羽だけというのがおります。私はそれを長いこと、心を痛めて見てきました。白鳥の世界にもいじめがあるのだろうか、さぞかし寂しいだろう・・・と。

ところが、ふと息子にそのことを言ったところ「お母さん、どうして何でもマイナス思考なんだよ。おれはずっと、あれは自立した白鳥だとみてきた。独りでできっちり生きてゆける白鳥なんだよ」目からウロコでありました・・・

昨年十一月の新聞に「飛べないコハクチョウ 今どこへ・・・」という記事を見つけました。埼玉県川島町の越辺川には、毎年百数羽のコハクチョウが飛来し冬を越します。ことしも飛来の季節がやってきたが、例年ならうれしそうに仲間を迎える姿が、今年は見えない。二千十四年の冬、一羽のコハクチョウが犬に襲われ、左の翼にけがを負い失ってしまった。やがて泳げるまでに回復したが、飛べなくなった。春、北の空に飛び立つ仲間を見送り、たった一羽で夏を越し、冬にまた仲間を迎える。それから五度も猛暑の夏を越して頑

張っている。生命力がある」と。

だが、昨年九月以降、行方が分からなくなった。地元の見守ってきた人々は、十月の台風により、越辺川が増水し、「下流に流されたかもしれない」と探しているが、いまだに見つかっていない。以前の新聞のようにどこかでたくましく生きていてほしいと願っている。

白鳥の仲間は世界中で八種類といわれています。オオハクチョウはコハクチョウに比べて体が一回り大きく、くちばしの黄色の部分がくちばし全体の半分以上に広がっています。そして東北地方や北陸地方に現れます。それに対して関東地方に飛来するのは、ほとんどコハクチョウと言っているのです。県内では、荒川の河川敷、川本町（現在深谷市）や荒川大麻生（おおあそ）公園（熊谷市）、そして川島町に飛来し越冬します。皆さんも時間があったら出かけてみてはいかがでしょうか。

さて、保護者の皆様に一言ご挨拶を申し上げます。ご卒業、本当におめでとうございます。

「卒業」、それは新たな道への旅立ちであり、希望に満ち溢れ

たときであります。しかし、それは同時に、親しい友との別れ
のときであり、おそらくは終生心に残るであろう人生の節目
のときでもあります。保育を取り巻く状況として、少子化、
待機児童、虐待等の諸問題のある世間の荒波に、立ち向かう
ときでもあります。道を間違わないよう、もうしばらく温かく
見守ってあげてください。

卒業生の皆さん、皆さんは記念すべき平成最後の卒業生と
なります。「さいたま景観賞」を受賞した、緑あふれるこの
キャンパスを愛し、この学園に学んで良かったと思える学園
生活、本短大の校歌にも歌われている「友よ やまむら」に
あるように、人生にとってかけがえのない友をつくることが
できたこと、そして先ほどの白鳥のように強くたくましく生
きていつてほしいと願っています。

四季折々に美しい花を咲かせる自然豊かな本学、就職先や
人生に行き詰ったときは、いつでも「ただいま」と言って来
校するのを待っていることを約束して、式辞といたします。

平成三十一年三月十四日

学校法人 山村学園短期大学 学長 野口 一夫